

大正九年四月十三日附施行



記



海軍軍醫少將醫學博士男爵
高木兼寛勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正九年四月十三日

内閣總理大臣原敬



内

閣

内閣勅第二五三六号

大正九年四月十三日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

八五三八六八

四月拾日 號可

敘從二位

裁上申

海軍軍醫少將正三位勲一等醫學博士男爵高木兼寛侯ハ夙ニ醫學ヲ修メ明治維新ノ際鹿兒島藩軍病院ニ附属シテ平三春二本松若松等ノ役ニ従ヒ今五年海軍中軍醫

内閣

ニ任セラレ爾來諸官ヲ歴テ現官ニ進ミ今二十五年貴族院議員ニ勅選セラレ方限令ニ依リ豫備役ト為ル迄二十五年間海軍醫務衛生事務ヲ擔任シ海軍ニ於ケル醫務並教育ノ基礎ヲ定メ兵食ヲ改善シテ軍隊衛生ノ佳良ヲ見ルニ至レルハ今人ノ力與テ偉大ナルモノアリ其他各種委員等ニ舉ケラレテ其ノ職務ニ盡瘁シ就中中央

大正九年四月十三日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

四月拾一日 總司

賞勲局總裁上申

海軍軍醫少將正三位勲一等醫學博士男爵高木兼寛儀ハ夙ニ醫學ヲ修メ明治維新ノ際鹿児島藩軍病院ニ附属シテ平三春二本松若松等ノ役ニ従ヒ今五年海軍中軍醫

内閣

ニ任セラレ爾來諸官ヲ歴テ現官ニ進ミ今二十五年貴族院議員ニ勅選セラレ分限令ニ依リ豫備役ト為ル迄二十五年間海軍軍醫務衛生事務ヲ擔任シ海軍ニ於ケル醫務並教育ノ基礎ヲ定メ兵食ヲ改善シテ軍隊衛生ノ佳良ヲ見ルニ至レルハ今人ノ力與テ偉大ナルモノアリ其他各種委員等ニ舉ケラレテ其ノ職務ニ盡瘁シ就中中央

作記
御署名

衛生會委員トシテ勤績三十有八
年ノ久シキニ亘リ又東京慈惠醫
院ヲ開設シテ施藥救療ニ努力シ
一面慈惠會附屬專門學校ヲ
興シテ後進ノ養成ニ力メ其、他
多年地方改良講習會ニ臨ミテ
熱烈ナル講演ヲ為シ國民體位、
向上ニ力メ又敬神崇祖ノ宣傳ニ
盡瘁スル等其、功勞顯著ナル者
ニ候處目下病氣ニ罹リ危篤ニ
陥リタル趣ニ付此際特別ヲ以テ旭
日大綬章ヲ加授セラレ度此段允
裁ヲ仰ク

内閣勳章第三五五号

賞勳局第五一〇三號

二五五

大正九年四月十三日

内閣勳章

内閣總理大臣

ノリ

賞勳局總裁



海軍軍醫少將正三位勲一等醫學博士男爵
高木兼寛儀ハ夙ニ醫學ヲ修メ明治維新ノ
際鹿兒島藩軍病院ニ附屬シテ平三春二本
松若松等ノ役ニ從ヒ同五年海軍中軍醫ニ任
セラレ爾來諸官ヲ歴テ現官ニ進ミ同二十五年
貴族院議員ニ勅選セラレ分限令ニ依リ豫
備役ト為ルマテ二十年間海軍醫務衛生ノ

賞勳局

事ヲ擔任シ海軍ニ於ケル醫務並教育ノ基礎ヲ
定メ兵食ヲ改善シテ軍隊衛生ノ佳良ヲ見ルニ
至レルハ同人ノ力與テ偉大ナルモアリ其他各種
委員等ニ舉ゲラレテ其職務ニ盡瘁シ就中中
央衛生會委員トシテ勤績三十有八年ノ久シキ且
リ又東京慈惠醫院ヲ開設シテ施藥救療ニ
努力シ一面慈惠會附屬專門學校ヲ興シテ後
進ノ養成ニ力メ其他多年地方改良講習會ニ
臨ミテ熱烈ナル講演ヲ為シ國民體位ノ向上ニ力
メ又敬神崇祖ノ宣傳ニ盡瘁スル等其功勞

顕著ナル者ニ候處目下病氣ニ罹リ危篤ニ陥リ
タル趣ニ付此際特別ヲ以テ旭日大綬章加
授セラレ度此段允裁ヲ仰ク

賞勲局

正三位勳一等醫學博士男爵高木兼寛
右者夙ニ醫ニ志シ明治五年四月召サ
レテ海軍ニ入り軍事衛生ノ事ニ膺リ
累進シテ海軍ノ醫總監ニ至ル同二十
五年豫備役ニ編入セラルル迄在職實
ニ二十年恪勤精勵貢獻スル所甚ク多
シ同三十八年三月勳功ニ依リ男爵ヲ授
ケラレ尋テ勳二等旭日重光章ヲ賜ハリ
正三位ニ敘セラル其ノ現職ヲ退クノ後

内務省

モ中央衛生會委員生産調査會委員
教育調査會委員議院建築準備會
委員日本赤十字社評議員濟生會評
議員中央慈惠會評議員東京慈惠會
理事同會委員長等ノ重職ヲ兼掌シ大
正四年勳一等ニ敘セラレ瑞寶章ヲ賜
ハル爾後引續キ孜々トシテ各方面ニ盡
カスル所アリ就中央衛生會委員
ハ勤續實ニ三十有八年ノ久シキニ亘リ
其ノ間ニ於ケル本邦衛生法規ノ制定ニ

付テハ殆ト之ニ參與セサルハナク會長
支障ノ場合ハ代リテ會長ノ職務ヲ執行
シ重要ノ法案ニ關シテハ常ニ特別委員
長又ハ特別委員トシテ審議ニ當レリ大
正五年保健衛生調査會委員トナルヤ
國民生活上最ニ重要ナル衣食住部會
ノ主査トシテ保健衛生上ニ努力スル所極
テ大ナルモノアリ其ノ創立ニ係ル東京慈
惠醫院ハ明治十五年開院以來施設年ヲ
逐フテ著々其ノ歩ヲ進メ以テ今日ノ盛ヲ

内務省

致セルモノナリ其ノ最近十年間ニ於ケル
救療者ノ數ハ入院患者延四十八萬二千餘
人外來患者延三百萬三千餘人ノ多キニ
達セルカ如キ我邦有數ノ救療機關トシ
テ施藥救療上ニ一異彩ヲ放テリ是レ總
裁有栖川宮妃殿下ノ御董督ト皇室ノ至
深ナル御庇護ニ負フ所ナリト雖亦以テ
同人ノ經營盡瘁ニ依ルモノ殊ニ少ナ
リトモ世局今方ニ一轉機ヲ畫シテ救療
事業ノ如キ社會政策上益ニ其ノ必要ヲ

感スルノ秋其ノ寄與スル所極メテ大ナル
モノアルヲ認ム而モ其ノ努力ハ此ニ止マ
ラス一面慈惠會附屬專門學校ヲ興シテ
後進ノ養成ニ勉メ更ニ地方改良講習會
ノ明治四十二年以來内務省ニ開確セラル
ヤ毎會進テ之ニ臨ミ國民體位ノ向上ニ關
シテ熱烈ナル講演ヲ爲スヲ例トシ更ニ各
地ヲ巡講シテ席暖マルノ遑ナク其ノ説ク
所懇切反覆他ヲ感孚セスムハ已マサルノ
慨アリ同人亦夙ニ敬神崇祖ノ念ニ篤ク

内務省

親カラ各地ノ歷遊シテ講筵ヲ開キ或ハ
汎ク印刷物ヲ頒布シ以テ斯道ノ宣傳ニ
力ヲ盡シ或ハ神宮御陵參拜團ヲ組織
セル等敬神思想ノ涵養尊皇報國ノ
志氣ヲ喚起スルハ勿論國民道德ノ振
作ニ貢獻セルコト歟カラス此ノ他教育
ニ關シテハ大正六年臨時教育會議カ負
同八年臨時教育委員會委員トナリテ
教育ニ關スル重要事項ヲ調査審議ニ
膺リ大正五年學校衛生委員會ノ文

部省ニ設ケラル、ヤ特別委員ニ舉ゲケ
ラレ主査トシテ學校衛生ニ關スル事項
ノ改善發展ニ貢獻セリ大正六年東京
市教育會長トナリテ市教育事業ノ改
良ニ盡瘁シ渡米教育視察團ヲ組織シ
テ米國ニ於ケル教育狀況ヲ視察セシメ
以テ我邦教育ノ改善ニ資スル所アリ大
正五年國民體育獎勵會ヲ設置シ國民
體育ノ向上發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ
毎歲春秋二季ニ於テ東京府小學校教

内務省

員ノ幹部ヲ招集シテ體育ノ重シスヘキ
ヲ說示シ尙自費ヲ投シテ之ニ關スル小冊
子又槓圖ヲ刊行シ汎々關係方面ニ配付
セルノミナラス地方ヨリ講演ヲ希フ者ア
レハ事情ノ許ス限り出テ、其ノ需ニ應ゼリ
又衆議院議負選舉法ノ改正ニ關シテハ
大正五年之カ調査委員ニ舉ゲラレ銳意
審議ヲ盡セル等其ノ努力ハ獨リ衛生教
育ニ止マラス汎々各方面ニ亘リテ殆ト寧
日ナク一身ヲ國家ニ捧ケテ老ノ至ルヲ知

ラサルモノ、如ク功勞極テ顯著ナルヲ
認メ候然ルニ今般病痢ニ冒サレ目下
危篤ノ状態ニ有之候ニ付特ニ旭日大綬
章恩授ノ典ニ浴セシメラレムコトヲ
右謹テ上奏ス

大正九年四月十二日

内務大臣 床次竹二郎

文部大臣 中橋徳五郎

内務省

海軍軍醫將正位勲三等勳章博士中將高木兼寛
右者明治五年海軍出身以來歴進現官
トナリ同二十五年貴族院議員ニ勅選
セラレ分限令ニ依リ豫備役トナル迄二
十年間海軍ノ醫務衛生ノコトヲ擔任
シ殊ニ明治十六年以降海軍省醫務
局長軍醫本部長兼軍醫學校長トシテ
海軍ニ於ケル醫務並教育ノ基礎ヲ定
メタリ尚海軍創設以來兵員ノ脚氣病
ニ罹ル者年々増加シ延テ兵力ニ及ホス
影響大ナルモアリ明治十六年軍艦龍驤
ノ遠洋航海ノ如キ同病ノ為ニ死亡者續

出シ頗ル慘憺タル狀況ニ陷ルマ刻苦奮勵
兵食改善ノ方法ヲ案出し同二十年ニ及ビ
同病撲滅ノ効顯ハレ海軍ニ於テ殆ト一ノ脚
氣患者ヲ見サルニ至レリ同二十四年叙勲
二等賜瑞寶章ノ光榮ヲ擔フ爾後二十七
八年戰役三十三年清國事變三十七八年戰役
及今回ノ戰役ニ於ケル軍隊衛生ノ極メテ佳
良ナリシハ同人ノ力與テ偉大ナリシモノト
認ム其ノ他貴族院議員トシテ今日ニ及ビ
其ノ間中央衛生會委員生産調査會委員
教育調査會委員保健衛生調査會委員衆
議院議員選舉法改正調査會委員臨時教
育會議主查委員等ノ公職ヲ奉スルコト多

年功績共ニ顯著、者ニ有之候處不幸ニ
シテ病ニ罹リ今々危篤ニ陥リ到底存命
覺東ナク候ニ付テハ特別ノ御詮議ヲ以
テ旭日大綬章ニ加授相成度比段及
上奏候也

大正九年四月十二日

海軍大臣加藤友三郎



海軍

履歷書

東京府華族

海軍軍醫少將正三位勲等醫學博士男爵高木兼寛

嘉永二年九月廿五日生

明治五年四月十五日 九等出仕申付候事

十月三十日 任海軍中軍醫

十一月十四日 任海軍大軍醫

全七年七月二十五日 任海軍少醫監

全八年六月五日 免本官

六月九日 海軍生徒申付候事

全 日 醫學為修業英國留學申付候事

全十三年十月五日 卒業ニ付歸朝

十二月十日 任海軍中醫監

海軍

明治十三年十二月十日 東京海軍病院長被仰付候事

全十四年十月二十五日 任海軍大醫監

全十五年六月七日 任海軍軍醫大監

七月二十日 東京海軍病院長被差免更ニ醫務局副長被

仰付候事

九月四日 醫務局學舎長兼務被仰付候事

全十六年十月五日 免本職補醫務局長兼醫務局學舎長如故

全十七年十一月十五日 補海軍醫本部長兼軍醫學舎長

全十八年十二月十八日 任海軍軍醫總監

全 日 補海軍軍醫本部長

全十九年四月二十六日 兼補海軍醫學校長

十月二十八日 叙從四位

全二十年五月七日 明治二十年勅令第十三号學位令第三條ニ

2/2
24

全 二十一年四月二十二日 全 二十四年六月十七日 全 三十五年二月十三日	依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク 神海軍中央衛生會議々長 敘勲二等賜瑞寶章 叙正四位 貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員 ニ任ス	全 十月五日 全 三十二年五月三日 全 三十三年六月二十日 全 三十六年五月三日 全 三十七年三月三日	分限令ニ依リ豫備トナル 中央衛生會委員被仰付 中央衛生會委員被仰付 叙從三位 特旨ヲ以テ位一級被進 中央衛生會委員被仰付 依勲功特授男爵	明治三十七年三月三日 全 三十九年四月一日 全 四十四年九月二十日 大正元年八月一日 全 二年二月一日 全 四年五月三日 全 五年四月一日 六月二十八日	特旨ヲ以テ華族ニ被列 明治三十七年八月事件ノ功ニ依リ旭日重光章 ヲ授ケ賜フ 叙正三位 明治四十五年勅令第五十六號旨ニ依リ韓國併 合記念章ヲ授與セラル 生産調査會委員被仰付 教育調査會會員被仰付 中央衛生會委員被仰付 叙勲一等授瑞寶章 大正三十四年事件ノ功ニ依リ金千五百圓ヲ 賜フ 保健衛生調査會委員被仰付
---	---	--	---	---	---

海 軍

海 軍

七月十日	衆議院議員選舉法改正調査會委員 被仰付
今六年九月三十日	臨時教育會議委員被仰付
今八年五月三日	中央衛生會委員被仰付
二月十日	多年貴族院議員、職ニ在リテ勲勞不尠 依テ金杯一箇ヲ賜フ
五月二十四日	臨時教育會議主査委員、職ヲ奉シ盡力 勤カラス依テ金杯一組ヲ賜フ
九月十五日	改正ニ依リ海軍軍醫少將トナル

男爵 高木 兼 寛

嘉永三年九月生

慶應二年十月

同 三年五月

洋醫石神良策ニ從ヒ醫學ヲ脩業
舊麻見島藩主侍醫岩崎俊盛ニ從ヒ醫
學ヲ脩業

明治元年五月

舊麻見島藩出兵中軍病院ニ附屬シ盤
城平三春ニ本松若松等ノ役ニ從事

同 十二月

舊麻見島藩開成學校ニ於テ和蘭學
ヲ學ブ

同 二年四月

洋醫藤田圭甫ニ從ヒ醫術ヲ研究前開
成學校ニ於テ英語脩業

同 十月

舊麻見島藩醫學校ニ於テ教師「ウヰリ

海 軍

アム、ウヰリスニ從ヒ英語及醫學ヲ研
究

同 五年

兵部省ヨリ召サレ同四月上京職ヲ海軍々
醫ニ奉ス

同 八年六月

海軍々醫ノ職ヲ免サレ更ニ海軍々醫生
徒ノ命ヲ以テ英國留學申付ラル

同 十年四月

英國外科學校ニ於テ「メムバル、シツ」ノ「デ
プロマ」ヲ受ク

同 七月

龍動内科學校ノ「ライセンシエート」ノ「デ
プロマ」ヲ受ク

同 十三年五月

英國外科學校ノ「フエロシツ」ノ「デプロマ」
ヲ受ク

同 十月

歸朝東京海軍病院長及海軍醫務局副長兼務

同 十五年七月

戸塚文海松山棟庵隈川宗悦等ノ諸氏ト相
圖リ有志共立東京病院ヲ創立シ貧民
患者ノ施療ヲ開始ス

同 二十年一月

東京慈惠醫院ト改稱シ貴婦人慈善
會ノ會員全体ヲ會員トシ 皇后陛下
御看護ノ下ニ置カセラレ同年一月二十二日
皇后職ヨリ左ノ通達セラル

東京慈惠醫院長ヲ貴官へ被仰付
候旨 皇后陛下御沙汰ニ付此段及御
達候也

同 四十年七月

組織ヲ改メ社團法人トナシ總裁威仁親王
殿下ヨリ左ノ御沙汰アリ

皇后陛下ノ旨ヲ奉シ東京慈惠會

海 軍

理事ヲ命ス

同時同殿下ヨリ左ノ御沙汰アリ

皇后陛下ノ旨ヲ奉シ東京慈惠會

醫院長ヲ命ス

明治十五年創立以來今日ニ至ルマテ刻苦經營會員民施療事業
ニ從事シ 皇室ノ恩惠ト社會ノ同情トニ依リ漸次盛運ニ赴
キ今ヤ資産ハ積ニテ百餘萬圓ニ達シ施療患者ノ總
數ハ百餘萬ニ及ヘリ尚附属醫學專門學校及看護婦教
育所ヲ設テ校長及所長トシテ醫員看護婦ノ養成ニ努力ス
創立以來醫學校ノ卒業生千八百二十九名内專門學校ノ課程
ヲ修了セシ者會員二千三百三十六名ニ及ブ